

「あなたはなぜ生かされているのか？」

～彼と共に生きる者へ～

第二テモテ2：3～15

■ 神の判断を仰いだ決断

弁護士の仕事は、物事を法的に精査してリスク管理することで、依頼人を損害から守るという役目を担います。そんな弁護士の決定は、とても大きな責任が伴います。佐々木弁護士という優秀な国際弁護士がいました。ある顧問している会社が、他社と結ぶ契約の際に、決定を大変に悩みました。顧問弁護士として法的な立場から、契約内容ができる限り問題のない内容が精査します。しかし、祈った時、神様がストップと言われているのを感じ、相手先から何度訂正を加え提出されても、その書類にサインをしませんでした。相手先からは「ダメ弁護士」と罵られ、自身も契約金の3000万円を取り損なう結果となりました。ですが、その相手先はその後別件で訴訟となり会社は倒産、彼を罵ったその会社の顧問弁護士は、責任を追及され資格は奪われる重罰に処せられてしまったのです。佐々木弁護士は正しい知恵の求め先を知っていました。もしも、あの時、その会社と契約を結んでいたら、佐々木弁護士の顧問先も大きなダメージを受けていたでしょう。神様はその契約一つをとってストップを出されたのではなかったのです。その背景にある、全体的なものを見ていたのです。その一件を経て、顧問先の社長は、その佐々木弁護士の決断力にますます大きな信頼を寄せ、彼と終身顧問契約を結んだそうです。

ですから私は選ばれた人たちのために、すべてのことを耐え忍びます。それは、彼らもまたキリスト・イエスにある救いと、それとともに、とこしえの栄光を受けるようになるためです。次のことばは信頼すべきことばです。「もし私たちが、彼とともに死んだのなら、彼と共に生きるようになる。」

第二テモテ2：10, 11

■ あなたはなぜ生かされているのか？

私たちが生きていくということは、すでに幾重にも重なった奇跡です。神様が私たちに与えられた命は、神様によって必ず守られます。私たちが生きていくのは、執着を捨てて祈るためです。「捨てる」という言葉には「さよなら」という意味が含まれています。あなたは持っているものを手放すこと、「さよなら」を喜んでいくのでしょうか？自分に、または何かに執着をしないのでしょうか？自分の執着にさよならして祈ると、ずれた視線であるハマルティア(的を外れ)から、メタノイア(悔い改め)して、神様の声が聞こえるようになります。神様を天秤にかけることなく「オンリー」の関係でいることが大切です。自分の執着を捨てて祈るために神様が大切にせよと言われているのは安息日を守ることです。安息日に心のうちすべてを捧げて神様の前に出ることが必要なのです。

「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」ヨブ記1：21

■ ①一生懸命頑張るな！

一生懸命に頑張っているのは自分の力で立っている証拠です。自分に死んでいないという証拠なのです。一生懸命頑張ることで失っていることはいないのでしょうか。頑張っているうちに視線の先がずれていき、不安に支配されて目的を見失います。そして頑張ったことに対して評価を求めるようになってしまいます。デンマークは敗戦後に法律を改訂しました。神様を、国民を、家庭を愛する原則のため、聖書の概念に帰ることにしたのです。デンマークは、北ヨーロッパのバルト海と北海に挟まれたユトランド諸島からなる、永久凍土に覆われた不毛の地と言われるところに位置しています。とても寒くて厳しい環境ですが、そこで生きていくための知恵を神様に求めました。神様と国民を愛するタルカス大佐が、志をもって熱心に祈り求めると、もみの木を海辺に植える知恵を与えられ、枯れてもまた植え、それを繰り返しあきらめずに行いました。それを見ていた、たくさんの人が彼に協力しました。やがて木々が大きく育って防風林となり

冷たい風を遮ったので、農業ができる土地が与えられました。デンマークの敗戦の痛みから神様に祈り、国民は共に使え、愛し合い、支えあって生きることを使命をもって行ったので、現在では最も幸福度の高い国民だと言われるようにまでなりました。私たちに命を与えてくださった神様は、祈り求める私たちを必ず守ってくださるお方です。私たちはもう自分の力で頑張ることをしなくていいのです。なぜ生きるのか、志をつかんでいますか。目的は志があってこそ与えられます。

■ ②理解する知恵

何か行動を起こす前に、知恵を求めて祈ることをしていますか？言葉を選んで使っているのでしょうか？知識で物事を見ることをしないで5番目の知恵の言葉が出るまでの4番目までの言葉を飲み込んで、知恵のある言葉を使いましょう。言葉の順番は、防護壁のように幾重にも重なって出てきます。①感情、怒り②不安、恐れ③逃避、責任放棄④少しの前向き⑤最善、信仰の言葉。最善を行うには知恵がいます。その前の言葉を捨て、最善を行うため知恵の言葉を語りましょう。知識でものを見ていませんか？神様に知恵も求めて、目的に向かって歩いていきましょう。

わたしはもはや、あなたがたをしもべと呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。ヨハネ15：15

■ ③世と戦う

神様の選ばれたこと、御心を行おうとすると、世に嫌われることがしばしばあります。そのほとんどが狭き門だからです。与えられた志に生きようとする私たちは、この世と調子を合わせてはいけません。静けさの中に住まう神様の声が聴こえていますか？聴こえずにしなければ聞こえません。騒ぐときはあきらめずに祈りましょう。友としてあなたに志を与えた神様に、いつも知恵を求めて祈ることが大切なのです。

「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心からしなさい。あなたがたは、主から報いとして、三国を相続させていただくことを知っています。あなたがたはキリストに仕えているのです」コロサイ3：23

■ 裸の王様(アンデルセン童話より)

特別な服を作ると有名になった服職人がありました。評判を聞きつけた王様は、自分の服を作ることをお命じになります。その特別な服は、愚かなものには決して見えないという服だそうです。彼らは詐欺師だったのです。もちろんそんな服はあるわけがありません。作業の経過を見に行った侍従たちも、職人の話を信じてしまっていたので見えないことを恐れました。ですからそれを隠して、王様に素晴らしい服を作成中だったと報告してしまいます。服が仕上がり、さっそくそれを着て王様は喜び勇んでパレードに出ます。もちろん裸なのですが、王様に愚か者だと思われることが怖くて誰も何も言えませんでした。ところが裸でパレードする王様を見たこともが、王様が裸だと口走ると、次々に笑い出しました。私たちはこの純粋な子どものように、どんな状況にあろうと、神様を信じて真実を伝えるものでなくてはならないのです。

■ 置かれた場所で

イエス様を先に知っている私たちが、まだ知らない隣人に伝えるために知恵が必要です。いただいた愛を流すために、今わたしたちの恐れを、騒ぐ心を、感情的な決断を捨て、知恵の言葉をもって志に生きましょう。執着しているもの、捉えられているものがないか心の隅々を点検し、すべて満たしてくださる神様の前に出て祈りましょう。

(要約者:牧 三貴子)

(2018年7月8日)